

込んだ渡航自粛など沈滞ムードを吹き飛ばすためだ。

2002年7月7日にはパリのオートクチュール（高級注文服）に挑戦状をたたき付けた。格式が高いとされ、限られた高級ブランドしか参加できないオートクチュールの

高橋幸宏君と楽屋でくつろぐ

開催期間の前夜にあえてプレタポルテ（既製服）の自分のショーをぶつけてみたのだ。

「果たしてどれだけのデザイナーが服作りで真剣勝負をしているのか。宝石や香水を売るための話題づくりで終わっていないか」と問題提起したかった。

「モードの帝王」といわれたイブ・サンローランが02年1月のショーを最後に引退したことに触発された部分も大きい。

「サムライ乱入」——。いつものように物議を醸したが、殻を壊し、社会を挑発し続けることが前衛としての自分の宿命だと思っている。（ファッションデザイナー）

孤高の哲学者 酒井 博

中学校時代に打ち込んだバスケットボールで培った体力に自信があり、神奈川県立多摩高校で陸上部に入った。同学年で同じ長距離部門にいたのが、山本亮二郎君だ。勉強そっちのけで練習に明け暮れ、部活を優先し2人だけ修学旅行にも行かなかった。進学校で多くの生徒が大受験を目指すなか、山本君は卒業後に働きながら学費をためて大学に入学した。独立心が強く、「親の金で大学に通って一体何を学びたいんだ」と私も問いただされた。周囲に流されず自分の理想を追い求める姿は哲学者のようだった。

久々に再会したのは2008年。母校が初めて高校駅伝で全国大会に出場し、京都まで応援に駆けつけた時だ。スタンドに集まるOBたちの中に、山本君の姿を見つけた。ベンチャーキャピタルのPE&HRを立ち上げ活躍していた。20年ぶりに一緒に酒を飲んだが、「独立への熱い思いを持った人を支援したい」と彼の信条は全くブレていなかった。

それから毎年、陸上部のメンバーで忘年会を開いている。場所は決まって東京・渋谷で陸上部の先輩が切り盛りする小さなバーだ。山本君の一貫した姿勢からはいつも刺激を受ける。コロナ禍で酒は酌み交わしにくいのが、またあの濃密な時間を過ごせる日が待ち遠しい。（さかいひろし＝クラブツーリズム社長）

交遊抄

の灯籠をつけて灯樹にしたりした。

前者は青森県のねぶた祭り、後者は秋田県の竿燈祭りを思わせるが、観灯会は皇帝や廷臣、女官らがいてこそ盛り上がる。

この年は皇帝が不在となる上に飢饉の被害が深刻なので、灯籠も灯樹も少なく、祭の仕度もいまひとつ盛り上がり欠いていた。

皇帝の一行が出発した一月七日、蘇州に残っている下道真備から仲麻呂のもとに書状が届いた。「仲麻呂、元気か。十二月八日に蘇州の船宿でこの書状をしたためている。これが着く頃には年が明けているだろう。新年を共に迎えられないのは残念だが、公務とあらばいたし方あるまい。

硫黄のことでは大変感謝している。皇帝陛下の勅命なので、遣唐大使の多治比広成どのは一も二もなく応じられたよ。四隻の船にはそれぞれ五十貫目（約百八十八キ）の硫黄を積んでいる。しめて二百貫だから、これを高値で売れば、蘇州を買い取り銭刺史を小間使いに雇うくらいの財産がで

きるだろう」

new art NEW ART LAB
草間彌生 常設展
— 本画・彫刻・版画・ドローイング等 —
東京都中央区銀座 1-15-2 銀座スイムビル1F
TEL. 03-3567-7811



Naomi Osaka